王　思維さんの日記

旅のスタート

2011.08.31

昨日、朝３時に起きたときは、空が明るくなり始めたばかり。朝早く起きた、というよりは、その前から全然眠れていなかったんだけれども。４時にチェックアウトしたときは、ホテルのロビーはまだ真っ暗。ロビーにずらっと並べられたトランクが壮観な眺めでした。

５時には首都空港に向けて出発。８時に搭乗。そして午後１時に日本に到着。

なんだか長い道のりだったな。やっと着きました。

王　思維さんの日記

9月のことあれこれ

2011.10.16

もし、日本に来たばかりのときはどんな気持ちだったって聞かれたら。

大マジメに、こう答える。もう忘れちゃった、私の脳のキャパって少ないから、他の人が１日で覚えられることも、三日もかかっちゃうの、で、テストを受けたら、全部きれいサッパリ忘れちゃう、って。こう答えるかな。

眩しい光に目を細め、新鮮な空気を胸いっぱいに吸って、空を見上げればきれいな雲、そして一筋の飛行機雲。あれはもしかしたら私たちが乗っていた飛行機が残したものかも。

それから楽しかった５日間の旅行。まるで試験が終わったばかりのような解放感。おもいっきり羽を伸ばして。

あの恐怖の日。日本の先生と対面して、ずっと仲良くしていた友達との別れの日。天気も小雨交じりで、空が私たちのために泣いている、なんて書こうものなら、それは日記じゃなくて、これぞまさにニセ文学。

私の派遣先は富山県。東京から新幹線で４時間かかる場所。雨はついに本降りに。窓ガラスに雨が吹き付けて、外が何も見えない。

その時私が考えていたことは、私のこれからの道も、まるで何も見えないな、って。

【画像】日本に来た日

2011.10.16

日本に来た日の写真。飛行機から。雲の間にいる感覚って好きだな。

途中でみた観覧車。と、きれいな空。

やっぱり、日本の雲ってきれいだなって思う。。ここで飛んでいるのはナニ。これは、ヒコーキ。

すごくすごくすごくすごくおいしいお弁当オオオオ。。。。。

【私のカメラ、日付設定がうまくできなくて。。あまり細かいことは気にしないでね。。。】

9月のホストファミリーについて

2011.10.17

これって本当に自分の悪い癖。

9月の日記を今までぐずぐずと書きのばしちゃった。おこったことをひとつひとつ分類して、ラベルわけ。

どんなものが、あるのか。

例えば、ホームステイ先のこと。

もし、日本に来て、一番緊張したことは何って聞かれたら、はっきりと、ホストファミリーに会ったときと、初登校のときって答える。。

高岡に着いた日は、思いのほかいいお天気だった。まずは先生と学校へ。

その日は日曜日だったので、校内に人影は無し。先生は車でホームステイ先まで送ってくださった。

その時の気持ちは、緊張、の一言。

家について、まずは挨拶を。それから自己紹介をして、部屋に案内してもらった。胸のつかえが取れて、ようやくほっと一息。

ホストファミリーは二人だけ。お母さんとお姉さん。。

お姉さんは私よりずっと年上。あまり共通の話題もないかな。お姉さんはいろいろ忙しいので、大部分の時間はホストマザーのお母さんと一緒に過ごすことに。

初めて家に行った時も、お姉さんは不在だった。

お母さんのお料理の手伝いはとても楽しかった。それからよく知らない言葉が出てくるととりあえずその場は置いて、

相棒の電子辞書でその言葉を探していたら、お母さんが、「你是不是想说土豆」（ジャガイモって言いたいのかしら）って。

“……”もうその場でビックリ

中国語だ、これは絶対、中国語だ！

あんまりビックリしちゃって、頭は真っ白。

後でわかったんだけど、お母さんは台湾人だったんだ。

お母さんと一緒にご飯を作って、でもお母さんはいつも笑いながら、アラ。おジャマさんねって。

一緒にテレビもみた。それからお母さんはNDSを使いながら脳トレゲームを。

一緒におしゃべりするときは、中国語を使ったり、日本語になったり、自分のことや他の人こと、人生や夢について話したり。

お母さんは、生きていくのって信念を持たなくちゃ。自分を愛せるようになりなさいって言ってくれた。

それから、日本人と中国人は考え方が違うから、気をつけなさいねって。

お母さんはたくさんのアドバイスをくれた。中国人として恥ずかしいことはしないように、とも。

お母さんとたくさんのことを話して、覚えていることも、もう、よく思い出せないことも。

よく、大好きな人に言われたことは、どんなことでもしっかり覚えておきなさいって言うけれど、私はお母さんのことが大好きなのに、いってもらったこと、ちゃんと覚えていられない。小説に書かれているようなことは、私にはできない。ここに書いておいたら、全部覚えていられるのに。自分のことを恨めしく思ってしまう。ウソだ、どんなによく書いたって、結局はウソになってしまう。

自分を見つめなおす時、自分に恥じるところがないって思えるのが好きだ。

ここでホームステイをして1カ月。お別れのとき、私は泣かなかった。つらくなかったって言えばウソになる。涙は流れず、流したくもなかった。

お母さんが私をじっと見つめ、ぎゅっと抱きしめてくれた。そして耳元で“泣いちゃだめよ。”って。

泣きたいけど、泣けない。

お別れって涙と悲しみにあふれるだけのものじゃない。

心の奥底に、そっとかくしておけばいい。

窓の外にはいつも通りのきれいな日本の空が広がっている。これでいいんだ。

いつか、またあえるから。

【画像】いろいろ。

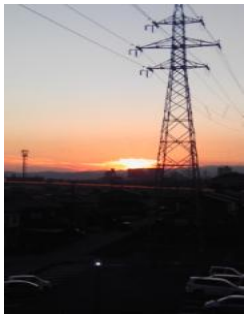
2011.10.17

富山に着いた日に見た虹。車のウインドウには雨の降った跡が。私は、これはいい兆しだ、良いスターをきれたなって思ったよ。

学校の前のちっちゃな駅。大好きなんだ。どうしてかな？

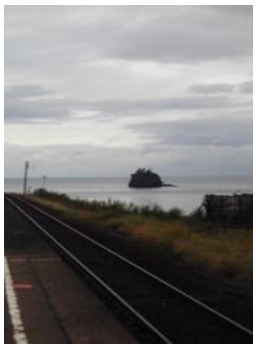
ちっちゃくて、なんだかホッとするからかな。（笑）

駅から見える岩。名前があるらしいんだけど、私は知らなくて。でもずっと、亀に似ているなって思っていたの。どう？



ホームステイ先で撮った夕日。下の白い光は街灯。ちょっとした公園があって、小さい子たちがよく遊んでいるんだ。

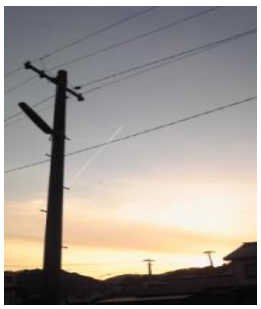
ここをこえると、海。



雨が降りそう。でも電車はまだ来ない。レールの上は何もない。曇り空。

お祭り。詳しいことはまた別にかくね。。

道端の曼珠沙華。学名は龍爪草。彼岸に導いてくれる花。伝説では三途の川のほとりに咲いているんですって。



空を見上げるのが習慣になっちゃった。下は夕日に薄く紅く染まった雲、上は真っ青な空。飛行機が頭上を過ぎていき、ジェット音が聞こえてくるみたい。

後記：

この画像は携帯で撮ったの。だからあまりはっきりしてなくて。

私は富山が好きなんだな。。

なんだか宮崎駿の世界みたい。

例えばあの小さな駅は、千と千尋の神隠しの中の、千尋とカオナシが電車を待ってる駅みたい。

金色の穂が垂れる見渡す限りの麦畑は、となりのトトロの舞台の村みたい。

緑の木々に覆われた遠くまで続く山々は、もののけ姫のシシ神の森があるあの山みたい。

他にももっとたくさん。次の曲がり角を曲がったら、きっと素敵なものが見つけられる。

きっとみつけられる……

試験に関して

2011.10.19

2011年10月14日。

日本で受けた初めての大きなテスト

2011年10月18日。

テスト終了。

とても大事なことなので、しっかり日時も書いておいた。

もうはっきりと覚えていないこともあるので、そういうぼんやりしたことはもう気にしないで、とにかく今はやりきった達成感に浸っていよう。

しっかりと、覚えていることもあるので、よかったことも悪かったことも、しっかりと頭に刻んでおこう。

テストって、もしかしたら中国人だけがこんなに重要だと思っているのかもしれない。12年間の勉強はすべて大学受験のためにある。

かつて中国では、試験の成績が良くなかったために、ぶたれたり、ご飯がもらえなかったり、家に入れてもらえなかったり、罰を受けることもあった。

試験が終わった学生は、鎖から解き放たれた野生の馬のようって言うのなら、成績発表のときは、しっかりと、鎖でつながれ、しかも孫悟空の輪っかも頭にはめられているんだ。

試験終了は11時40分。試験用紙が手から離れた瞬間、もう崩れ落ちてしまいそうな感覚に。

神サマ、タスケテ。

かなわぬ時の神頼み。

心に刻んでおこう。

【PS。。レポートをどこに書いたらいいのかまだわからないのですが。。。。先生、教えていただけませんか。】

【画像文】カラスに関して

2011.10.19

中国で同じように道を歩いていたら、頭上を飛び交うのはスズメたちなのに、日本ではそれがカラスにとってかわられている。

アニメの中では、何か不吉なことが起こる前に、カラスが電線にとまって、鳴き声をあげている。そしてバックが血のような真っ赤にそまる。

例えば名探偵コナンで、街中でGINのポルシェ356Aの追跡装置に引っかかってしまう場面でも、カラスが現れた。そしてGINとウォーカーが街中ではちあわせをしてしまう（たしか189話ぐらいだったかな）。

テニスの王子様では、竜馬と伊武深司的の対決で、カラスが鳴き声を上げると、竜馬のラケットがおちてネットの柱にぶつかってしまい、弾き返されたラケットで、瞼を切ってしまう。

中国にいたときはこれがよくわからなかった。カラスってそんなにしょっちゅうみられるものなの？

日本でカラスを初めてみたときは興奮しちゃったけれど、いまでは、真っ黒な顔のカラスの群れが飛んで行っても、全く見慣れてしまった。

ついこの前もカラスを見た。別に特別なところはない。いわせてもらえば、カラスはみんな真っ黒け。

ときどきカラスが線路のところで小石を探して、それをついばんでいくのをみることも。カラスは悠々としているし、こっちもフツウに眺めてる。

電車が近づいてくると、カラスもゆるゆると近づいてくる電車の方をじっと見つめ、こっちがアッと声を出しそうになる瞬間、パッと飛び立っていく。

カラスはむかいのホームの屋根にとまり、そこからレールの方をじっと見つめてる。

今日もカラスを見た。自転車に乗っているときに。

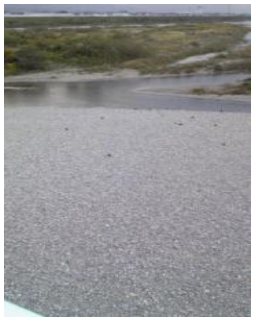
引っ越しをしてから、学校に行く途中大きな橋を渡らなくてはいけなくなった。川の名前は庄川。水は少ないけど、透き通ったきれいな水で、川底の石が見通せる。石が積み上げられた川岸にはいつもたくさんのカラスがいる。

今日、一羽のカラスが橋の欄干にとまっていた。自転車でその横を通り過ぎて、その先で急停止した。カラスとの距離はほんの１Ｍ、とまってしまったのは、カラスの鳴き声を聞いたためかもしれない。

携帯を取り出して写真を撮ろうとしたら、こっちをチラッとみてフン、とばかりに飛び立ってしまった。

すごくザンネン！

川岸にはたくさん残っていたカラスたちも、次々と私の視野から消えていき、前方のアスファルトの交差点の信号のところには、カラスたちの大好きな小石がたくさん転がっている……



朝通った庄川の橋の上は風が強く、川岸にみえる黒い点々はカラスだ。川岸は石を積み上げて作られている。アフリカの大草原にいる動物のような感じだ。もし水かさが増したらこのカラスたちはここにはいられないのでは？

水かさが増す前に、ここにきてちょっとだけ、みてみよう。

【この前城端線にのってみては、とコメントもらいましたが、今私は毎日その線を使っています！~二塚からだけですけどね。いつかはこの電車で合掌村に行ってみたいです。あの風景を自分の目で見たいな。

富山って、本当にいいところだ！~。】

ニキビと髪の毛の悪循環に関して

2011.10.19

髪の毛が伸びて、BALABALA 。

それからにきびがふえちゃった。

ひたいのにきびを隠すために髪をたらして。

でも髪で隠しているとにきびはもっとヒドクなっちゃって……

これぞいわゆる悪循環。

人生にはあれやこれやの無限ループが。

子供じみて、現状を変えたくなくて、無限ループに陥るのもあたりまえ。

まだ子どもなんだからっていって、そこからぬけだせなくなって、ますます深みにはまっていく。

【最近は開き直って、家では髪を思いっきりあげているの。髪がかぶさっているおでこの風通しを良くして。

こんなのは早く断ち切ってやる！~でも人がいると無意識に手でおでこを隠しちゃうんだ（ー ーb）

時々、にきびがちょっとはよくなったか鏡を見て確認。全然よくなってないと、子供っぽくふくれちゃう（ー皿ー）

ラララら、おこちゃま全開、ワハハハハ！~】

【画像】北陸大学の日帰り旅行（上）

2012.01.06

10月に、学校で石川県の北陸大学の見学に行ってきました。もちろん、そこの風景はきれいで、ホント、うらやましいなあ！↖(^ω^)↗

その日の雲、きれいだったよ。（ねえねえ！~どうして毎回、雲なの。。。）

これは出発前、私たちの学校。

見ての通り、北陸大学は小高い丘の上にあって、校舎からは海が見えるの。

大学から見た景色。

ケーキ、ケーキ！~食堂のケーキがこんなにおいしいなんて！~

紗綾のケーキはイチゴの。

みんなと一緒にずっと続く長い坂を歩いて。

自習室。熱いお茶が淹れられた自習室を想像してみて。窓からは明るい光が差し込んで、机を照らしている。疲れてふと頭を上げると、外はあふれる緑と真っ青な空。満たされた気分になるよね。

<(￣ ￣)> []~(￣▽￣)~*

階段をのぼると、孔子の笑顔が目に入ってくる。

この自然こそ、孔子学院だね！~

孔子学院の校舎は木造なんだ。レトロですてき。北京の四合院みたいな構造で、なんだか親近感を感じるよ。

屋外の小ステージ。学生のイベントに使うんだって。なかなかのデザイン。こういうかんじ、超好き！

孔子学院をでて。外国で自分の国のものを見るって、一種の感動と、誇らしい気持ちが沸き起こってくるよね。。

感：

長江の水を15年飲んで育った自分が、今、異国の地にいる。

中国料理を15年がん食べて育った自分が、今、異国の味を味わっている。

私は自分のルーツを忘れることはできない。それは華夏に根ざしたもの。

外国で、自分の目で孔子学園をみて、故郷への想いが沸き起こってくる。

北陸大学への旅はまだ続くよ！

【私の家のカメラはずっと調子が悪いの。この日付はなんなの。今度はみえないようにしちゃおうっと。充電するするたびに自動でリセットしちゃうし。。。。】

【画像】北陸大学の日帰り旅行（下）

2012.01.06

落ち葉が地面を覆っている。秋ならではの風景だね。

藤棚からの木洩れ日。

池も底まで見通せる。魚たちもゆうゆうと泳いで、まるで空を自由に飛び回っているみたい。

川に架かる橋。

並木道

竹林。

空。

空。

食堂。ガラス張りを通して、一面の緑がよく見渡せる。

これが最後の一枚。重厚感のある木造の廊下。

この廊下を出たら、すぐにこことお別れなんて考えもしなかった。

気が付いたときに　はもう車は私たちをのせてここを出発。校門のところの風景も撮れなかった。残念。